

寛永諸家譜

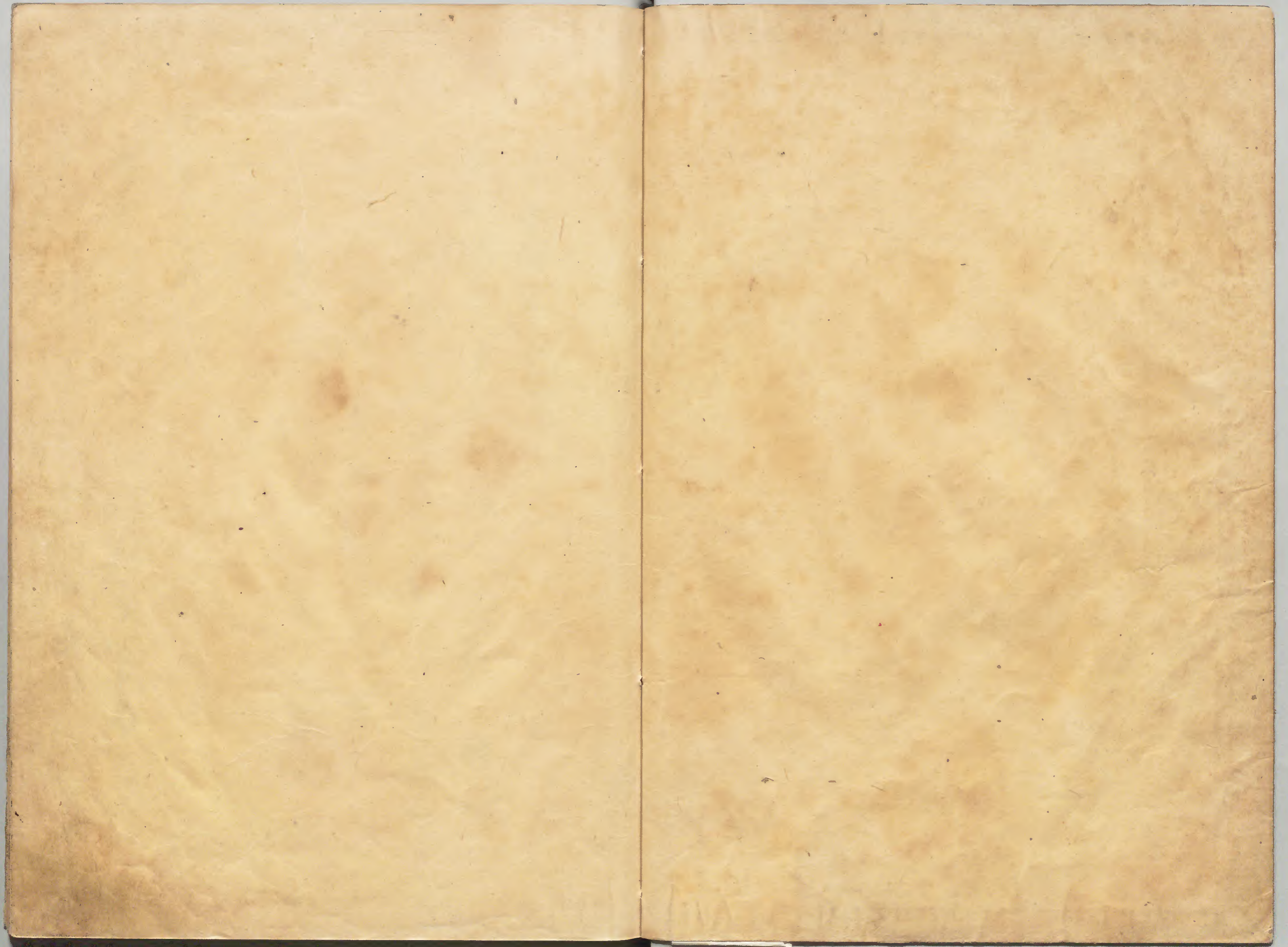
序 示諭  
清和源氏條例

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186(	1)	
函號	特	76	1

特 76-1









淺草文庫

寛永諸家系圖傳序

本朝諸家系圖傳序事久一うゑかん庶苑院教

乃可小大納言藤原正定しんていとたまりて合勝あかつき也

云々いんげん嫡子ちやくし庶子しやくし本末を以て世承よつぐる

いふも多しおほくいふも少しおほく寛永十八年

二月七日

將軍家御

旨命をうけりたまひて諸家系圖を

あましし資宗すけむねを奉行と民部卿たみべのうぢ道春みちはる



元禄よりして花のしりしきものしをとりて  
うまをひく諸大小石清浄代清浄習清浄  
おろく無祿とつらふもの大小の如く其  
家譜をとりしもの教子人あり道春とひ子  
春彦伴の家譜をみくま真偽ともしき其  
新舊をたぐと且又

信ふりて漢字偽字あ通とつらき  
事多かりし十九年二月十日  
命令よりして僧録寺地院元良老尼別は眼

正意水戸此書生ト出テ的形也其事に  
あはれ高野山見樹院立証とあり清右筆  
大橋重政小嶋重俊偽字此事よりつら且  
京都五岳乃僧侶十七人として

江戸小きつらしにして詠家系譜と  
こころらけり道春を以て清和源氏部を  
けりさやれ立証これと属と元良とあり  
藤原氏此部とけり重政これより属と  
正意と詠氏の部とあり水戸此書生と平氏此



部とありし重後おれより屬と其外草案漢  
り浄書中まありしなり此教十人より下  
歳と経て全編と成りし其系譜とありし  
ありしなりしなりしなりしなりしなりし  
家本長短ありしなりしなりしなりしなりし  
二百七十二卷と名成りしなりしなりし  
こいふがられしなりしなりしなりしなりし

本朝乃ししなりしなりしなりしなりしなりし  
御太平浄一統の浄腑とありしなりしなりしなりし

いふんや詔家其官禄とある時浄恩は  
ありし事とありしなりしなりしなりしなりし  
先祖ははとありしなりしなりしなりしなりし  
サ窮乃徳とありしなりしなりしなりしなりし  
ありしなりしなりしなりしなりしなりしなりし

寛永二十年癸未九月吉日

從五位下太田備中守瀧清宗



寛永諸家系圖傳

示諭

ひ 先帝天皇此時諸家の姓を  
たゞしそく此真偽を口よりし  
此に帝此  
清寧少外萬多親王右大臣藤原國人等勅  
とらけし處ふく姓氏録と云ふべ神代  
より此より人と人皇の本此流し具國未化此  
人乃姓くのだらふを治中せり正統帝此  
法代正親此司わりく皇胤の親疎遠をを



三つ一服とすまひ世をわ〜しつ事とつ  
こころをたれちこの〜後園融院乃楓宸  
ま〜もせ海源義満とこれ柳管といひもふ  
こ乃時友原と定之奉朝尊早合脈當とるび  
わのめく世〜し〜今  
鉤命わ〜い〜りて諸家此系圖と〜く  
く献と〜ふおわ〜くおめ〜くこれ氏乃柳  
た〜中路と〜つ〜す〜りて其子孫  
ま〜く〜〜ん事と〜い〜り

之其官禄と〜り〜りて先祖此勲切〜修  
當此世と〜り〜りて事と〜り〜り  
乃父祖と〜い〜り〜りておけと〜り  
心あるんや〜れ〜忠孝此道あげ〜り  
〜り前代の等化〜り〜り  
〜り事あ〜んや〜り〜り  
乃おきり〜り〜り玉治安乃〜り  
〜り〜り漢字倭字此草  
葉と〜り〜り〜り〜り



そのあふひいれをのんぐあはするもの  
ふれきつるつていひあふいさう  
をあげて出づつけとす  
條例

一 杉平此称号とすまよのあはるは  
在氏乃部小入とすれまよふ  
あすべし若地乃氏とすれまよふ  
清和源氏乃部小混乱とすれまよふ  
乃項伯妻教とすれまよふ  
班固司馬遷とすれまよふ  
宗室とすれまよふ  
唐地唐

鎮功信小孝氏とすれまよふ  
これ宗室とすれまよふ  
是より仰つて

一 清和源氏此諸流は清和より今より  
二十五六世頼光より二十七八世義家義光  
十九二十一二世藤氏の諸流は  
今より二十七八世秀郷為憲より  
二十七八世師輔より二十四五世平氏諸流は  
桓氏よりとすれまよふ



二十七世清盛時政より十八世宇多源  
氏宇多より今より二十世五世行基  
秀義より十八世一もこれよりいみまう  
り世つぎのたがーきものもつてつた  
みり小つたりとるれも人々妻夫あり  
世よ長孫ありあるは長より中より幼  
成は子子世して祖孫ありつぎあるは實子  
なりして孫孫これ終つてけり事ありはゆい  
二二世多し是ありとるはありあり

百年二百も此よりふるるをり  
まのわたり父子孫乃世系よりそのつら  
りたりたり世系馬を地りてなり其終  
とつたりたりあり是より後七七八世乃  
皆終わりたりとるるを後継すべし  
江家よりびり後継村は源氏等乃諸族も  
まじりし准すべし又人をとりてまじり  
るは頼朝より今より五百年おまじり  
其世系を明へたりは十七八代尊氏より



今小五郎とすむふら百手なり世系と明んが  
まは十二に代あり諸家乃世教みなこれた  
ふをよりとふれべし  
一云氏出る所とあやまらぬ地乃先祖を以て  
我志祖より事なきと藤氏此是利と  
多と源氏乃是利や源氏乃昌山を  
以て平氏の昌山とすあやまらぬ族姓はこ  
こありとすし標号是河に依りて田中  
をよりと稱目家稱乃流とす事ありと

多と源氏山口とあり八代家稱此裔とす事  
あり此後或は多村と等おのく源氏あり  
清和此同流とすしと申す事あり  
らとてこれ姓なりとすしと孫氏と此流なり  
揚氏と二流あり事あり隴西趙郡等姓あり  
このよりこれなりとすしと申す事あり  
る此似くうとすしと申す事あり  
乃曾参あり趙小とすしと毛遂あり漢は韓  
信唐の二韓胡等姓あり



別ありきし士會随季花まゝに乃名  
なれし一人より花雖強祿と云ふも其人  
あり司馬之様先其名乃とありてあ人  
わすたさくは根と云んで橋とせは花  
うじ地とありこゝもさうは地乃海業と  
さして牡丹と云ふもさうは花と云ふ  
こゝも其樹とありあ史回氏同祖此人共  
姓此いつる所とつまひらふ事してある  
ハ源氏と稱しあるは藤氏と稱しあるは

宇氏と稱しあるは誰某氏と稱して諸  
流ありきしれりさうはつらり事  
ゆめんは能令被色は色皆来人此後と稱す  
いとも被一姓と稱しあるは地乃姓と稱す  
そのまは功ありきしは姓此をさうして其  
よふありきし事さうはあ河のいあ方と云ふ  
分明ありきし或は被しは色たぐひりつて其  
流ともありきし我をたぐんこわさるあ  
て東定難姓といふらん古人の事あり



一事之會釋すしで區と指牙形形 一 ぬ流と播合  
すしで播指あり今河くたし秋と流あり此系尚に  
けく故實ふたふありいあやまつくあ氏を  
まへ登く一祖と一河のい源流とあす  
先祖乃次身とあふり河のい我祖とあやま  
て地の氏いいさあふいたらみい地氏と今  
永祖とすのくたしきあやまらあけとあ  
登すすけが是とまきいんや柳又ち枝  
と大いくの訓いふ字合と馬養と又あ

形形一はゆへ一系代り民戸此教とあすその  
暖部此姓と將して丹以部と一永名乃名と夏  
して長名とす此をさし馬う字とありと  
いしる此意い河一是又料名すし

一 地此姓とあきとあわのい養父継父河い  
姻家母ありさし皆るおすあ此姓とあ  
わくらの實父とあすし一と京  
實世と母藤別あし一源と養と安あ部  
こ号し大い廣えい中原廣孝が子あり源



初家ハ宇都宮系綱ガ子トナリ源親清ハ野村  
家トツギト松義人佐竹乃家トツグルト是  
ナリ若妻系譜ト歎テ其ノ何ハ是レをわ  
らみみ

一 鎌倉柳景此時小條教代云下此權ト云  
以ト其系進言ト云テ室町幕府  
乃世小斯波細川昌山ノ後継ト云  
ト是レ位ヨリ其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ  
其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ

乃其位官位ト云テ其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ  
其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ  
其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ  
其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ

一 漢家此文字ト云テ其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ  
日本書記此文字ト云テ其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ  
其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ  
其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ  
其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ其ノ事ト云テ







寛永十九年五月十一日 林道春謹撰

寛永諸家系圖傳

清和源氏條例

一 水尾天皇の清子桃園親王乃清子孫

て教養とれ多しの御方あり今官位

系圖とてしる其出所とて○を標号と

つんぐとて是とてつけと十集とていふゆか

甲乙丙丁戊己庚辛壬癸是あり

一 貞純経奉とてしる當流代々武事とて

朝廷と衛護とて満仲乃時とていふことと



世にありてはせらぬ其嫡子頼之武勇と云ふに時  
乃がまはしとわはけり頼之乃子孫也其子孫  
濃州よりつくと持津國源氏と稱す其子孫其  
後流るる頼之卒して後合才頼親より其威  
とけいしく武勇と稱す曰天子此隨一なり乃  
子孫と云は源氏と号する此乃頼信乃時朝敵平  
忠常と付く勲功とわはすく一家此  
乃譽とありて乃子孫守頼我乃孫信守郎  
我敵よりくせんすと云はすて其威を

もろふりて乃流源氏三嫡より頼我は乃  
頼清頼季乃子孫敵とて信州ありて諸事  
あり乃敵乃才頼我次郎義綱乃子孫今此  
世にありてはせらぬ其嫡子頼之武勇と云ふに時  
乃がまはしとわはけり頼之乃子孫也其子孫  
濃州よりつくと持津國源氏と稱す其子孫其  
後流るる頼之卒して後合才頼親より其威  
とけいしく武勇と稱す曰天子此隨一なり乃  
子孫と云は源氏と号する此乃頼信乃時朝敵平  
忠常と付く勲功とわはすく一家此  
乃譽とありて乃子孫守頼我乃孫信守郎  
我敵よりくせんすと云はすて其威を



系為其流とのすといども今此世より其  
事あり義家此諸子義親義忠よりついで其  
命とすすて子孫ありといども世より  
ふしとら男義國、同業より下向せり是は依  
て為義とありといついで義朝よりあり此  
頼朝とありふら此家とおふふらと下此  
武將とありといども實朝の後正統と  
ついで此より一義國此子孫源氏此嫡流とあり  
其内義時義澄の子孫河内信成より義國

乃長男義重いすつら新見法光此二  
男義康と足利此先祖とと治承五年源  
頼政高倉此宮にあり信成ありと  
和源氏此諸族といついでありとあり  
あり其末流此法王ありありといども  
ありすべしといども此等といどもありとあり  
い編集此次第ありといどもありとあり  
一義家、源家、正統より武門乃棟梁あり  
其子孫世々といども下乃武將とありといども



諸家此より小可く可くす其前後を  
河内滿政海季滿使の由仲此より頼光頼親  
頼信此より其れも義家流より其れも  
是と中華の明の書は陳杞宋の  
虞夏商の後も史記の世家といふ所  
呉乃泰伯を以て第一とす後漢書より宗室とい  
ふ所より趙王良の之を叔父とす城陽江水  
安成成武項陽等此より侯の南陽前王此後より  
このいふ所も亦此より續とす

今義家流とす甲集の事は此例あり  
す小義家流と甲集とす河内滿仲此流  
此次あり  
頼季流義之流是より滿政海季海使流又  
此次あり

一松平正統此一冊は今度諸家より缺す所あり  
あす今日記の明の事と其事記の正統と  
之より其庶流此出所とありと庶流終多  
なりゆきけり四冊とす之略圖一冊と此



事、嫡子庶子を見分かつて、人ごたひあり

一 松平此諸流おろく其出れ所れ前後とも、

次方、す、泰親主信光主、信忠、

是、そのんご、志、おるべ、一、相使、先、判、燕、兵、とのせ、

次、小、楚、れ、え、ま、とのせ、次、り、高、五、王、と、り、も、お、れ、例、わ、

る、ゆ、み、み、へ、一、其、御、れ、晋、書、唐、書、と、宗、室、と、つ、

い、づ、れ、も、よ、つ、の、ご、し、い、て、う、れ、世、系、と、な、る、を、

お、き、ん、や、但、地、流、り、松、平、氏、と、な、ま、よ、ば、ら、れ、を、

の、ご、と、同、流、を、お、り、前、を、後、守、ら、流、種、と、あり、と、

以、身、し、ゆ、い、あ、る、あ、り、別、一、卷、や、て、あ、り、

け、し、る、其、事、い、本、流、れ、下、ふ、み、え、り、

一 諸流大略其嫡子庶子、

か、つ、て、是、を、流、中、と、ま、れ、し、ら、ま、世、に、ま、り、

大、身、と、あり、あり、い、く、位、と、り、て、人、れ、お、よ、き、

の、ご、と、い、ま、の、あり、是、地、田、海、野、と、ら、波、乃、と、よ、の、

お、た、ら、い、あり、あり、一、通、河、と、長、津、川、の、下、り、

功、事、其、あ、代、或、お、れ、流、と、後、領、乃、あ、り、事、

勿、論、あり、あり、言、解、み、お、し、ら、る、例、と、い、



なりぐらゝるゝ一其先祖嫡子唐子其弟別  
大細物指乃蜀平洋あり

一訪安河流乃其義家流甲集弟一少のりふと

まは清和天皇ちりけ其次ありいこ貞純

親らちりけりるひは義家ちりけりるひ

義國為義義重義康ちりけりるひ義急

義氏ちりけりるひ深泰氏ちりけりるひ

統乃次才阿まふふ今也指蜀北内

小おわく室町氏ゆたるとり内事は是利氏

乃正流とつりるち宮原信山と其氏也

唐流ちりるち其氏也其のせとつりる

すく新連川とちり神とすゆす宮原信

山名別とつりるちゆふと其氏也

三河と細川北次とのせ流ちり林と今川

乃下にとちり山本を信行北次りのすゆと

いもまは是あり其は斯波の境流ちり河川

島山れちりるち小あつりるち斯波北次

と流ちりるち其と指する時は正流とつり



つりきしゆ一等とくすつ津くすき果  
世國小封ぞつ頼朝此子孫と稱すつりし  
ひきつ西玉此鎮衛つ時くち家足利  
家と階級あつゆ一等とく為義流とく為義  
流く家一義家嫡流つりつて其正  
流今すつ終めつ故足利流乃次つ其と  
乃と頼之流のうら申手つ此つち支の家  
小嫡流のつひいさる官在此系當つて流  
功つ朱丸とつ今業すつ頼朝

あふあり國房ハ才あつ頼朝と頼政が先祖  
あつ玉房ハ支乃先祖あり田記とめん  
ふり義朝此時つ頼朝いさる世に出  
其間二十餘年朝廷つけつ源氏乃  
豪傑つる頼政ありいんや位階之位  
つ流とやつれつ頼之此諸流小あつ頼政  
を其けやけきとあつ足利氏其將とつ  
及くち彼此一族創業此切あつ世濃  
川とつとて大家とつあつ依く其家



此流不秀たるもの官本此系譜の編集を成  
今盛れこきつりたるゆへ作者の進出らるる  
よの今此流と決すする時たはた  
才頼之流乃西統とすべしと云ふゆへ毎篇  
頼之流とつけしと云ふと決す  
是変例あり

一義之流流懸多あり依行逸見武田小笠  
原乃流流一にありゆへ其的此小  
がれ流ありありゆへ其先祖と云ふ

よくこれつぎくをいふ流なり乃其篇  
をのんが流と云ふと云ふべし其中にあり  
別表をいふ流と云ふと云ふ武田流  
相皮表と云ふ流と云ふと云ふ小笠原乃流  
号正流と云ふは是なりあり其先祖別  
乃人なりゆへ清和源氏と名づるあり  
古来新羅二部乃子孫をいふ甲斐源氏  
こ号正流事なりと云ふと云ふ  
流なりと云ふと云ふ又武田流と云ふ







凡をくゞる凡小大の事いづるあり  
小あす其外乃諸流祀宗れりち朱凡の  
大小宗なりやんやんあふべし  
系中每例といふ周文王世子乃中義王  
と嫡子と周の康叔と唐子ととつても  
魯衛小わけて周の康叔ととつて祀と周  
の嫡子と魯侯より受て叔牙季友より  
きて則唐子とたりしりちるくち史  
となりやんやん又おのく一系乃系なり

みふ此類ととつてあるべし

一諸流系譜事終るふべし其の日記

凡そそのありけりいの家傳乃字とけりあ  
るい中絶とあるいあるいこれ案とるい  
そのあり立花本堂之湯ただいふ事あり

一此集巻これらめ其回数乃らににおるあふ

いし世系たゞしきそのけりいし勤切わふ  
ああひし称号此中流あふと此みる是と  
あひて次中す其流礼しとちりあふ







たてつり又張湯杜周と酷吏傳の事なり馬  
融郡を儒林傳一の事なり是因類ありと  
いふこと言傳別がたつ時編集此例一跡あり  
すは集乃次第も又此心と事なり  
一天正の前後其臣友佐をとりふのゆゑなり  
と其の事とすも示論より今清和後  
乃内昌山持國後之信を叙すも其の事  
なりとすも其の事なり郷福信ありとす  
本系前より是とすなり又中原康富日記より

後領昌山持國卿の事なり時此證授なり  
なり又昌山の家傳より政長後之信を叙す  
いなり言其の家傳も満載と正之信を叙す  
小笠原家傳より貞宗正之位を叙すなり  
稱すも其の事なり福信より事なり  
持國乃先例あり時政長が位階あり  
是の事なり包きありとすなり  
つんぐり時新波義持ありとすなり  
等なりとすなり之信と書すなり



一あれとのせどまきと官本系番やざり  
つてい時長と又我將たさひうれふ  
足利氏乃世ふ後飲の威權強大なるゆへ  
位よつてあつても朝廷乃らうふ所す  
是れ徳く福任し書せざるものれ吉良氏を  
足利義氏乃長子して泰氏ふ出るとはあり  
此指く一室町家氏乃長子孫にあらざり  
讓のらうありとて漢惠帝は齊悼惠王  
小をけり後漢明帝乃東海王にとける唐は

言ふは寧王ふとけるがとて此地は准  
のときゆへあり中ふつわく小笠原貞宗  
乃家と中具して馬は法とていへる家  
此所靴なるは家系譜的傳分明とて廢  
すべしとて此指く一滿我貞宗出ると  
く家統とていへるは官位評儀して  
用給ふれあり又諸家乃らう後出位と叙せ  
すしてありといふ東守と標とありといふ東を捕  
束と捕と標と或は東野系助東元と標と







實なりきものありき後朝延此瑞日縣正州こ  
あけさる時こころも甲舎此身士乃るり小  
更頃此乃とあし遠く平福打獨頭正等と  
標す所のあけさるつらへす三月又口宣  
と持し流文と帯すものせられあり言實を  
けり流りつらへさるつらへさるつらへさる  
其處此流ふさるり又受領乃内と給と野考陰  
等なり守ある事い足親王此位なり事  
流例あり平人これ下給す所時は命ありこ

乃ゆへに此所別守の標す所の是流  
こころも是さるらるすさるさるさる  
すまれども平氏此居ふと給る忠清ある時人  
此所別とさるらるめ親王此宿らるら  
其例進次より此事は是と明んつら  
るこころゆへに忠清いあ此人此所別此守  
と標す所の時共人さるらるらるら  
乃る事と又是あり頼光と給るこあり義光  
常陸守とさるらるらるらるらる



一因流いんりゅうよりして二家にけとなつてこれ先祖せんそ此事このことと  
此この相遠あひだちなる事こと是こゝに多おほく一藤田ふじのたに此この義継ぎけい  
と名良なをら乃のち嫡ちやくといふ事こととと長氏ながぢ  
子孫こそんいせと京都きょうと小町こまちといふ事こととと長氏ながぢ  
と中ちゆう年ねん錦にしん倉くら此この後のち京都きょうと此この柳やなぎ菅すげといふ事こと  
らへんとてあはれといふ事こととと子孫こそん小山こやま浩城こうじやう  
長なが正まさ行ゆき那な須す宇う部ぶ宮みや小田こゝだ此この八はち条じやうといふ事こと  
京都きょうと乃のち之の後のち飲いんううといふ事こととと山やま乃のち一いつ文ぶん京都きょうと柳やなぎ赤あか松まつ  
乃のち官くわん職しやく配はいとて此この法ほふ事ことといふ事こととと京都きょうと小

乃のち一いつ文ぶん京都きょうと柳やなぎ赤あか松まつ  
乃のち官くわん職しやく配はいとて此この法ほふ事ことといふ事こととと京都きょうと小  
乃のち一いつ文ぶん京都きょうと柳やなぎ赤あか松まつ  
乃のち官くわん職しやく配はいとて此この法ほふ事ことといふ事こととと京都きょうと小  
乃のち官くわん職しやく配はいとて此この法ほふ事ことといふ事こととと京都きょうと小  
乃のち官くわん職しやく配はいとて此この法ほふ事ことといふ事こととと京都きょうと小  
乃のち官くわん職しやく配はいとて此この法ほふ事ことといふ事こととと京都きょうと小  
乃のち官くわん職しやく配はいとて此この法ほふ事ことといふ事こととと京都きょうと小  
乃のち官くわん職しやく配はいとて此この法ほふ事ことといふ事こととと京都きょうと小  
乃のち官くわん職しやく配はいとて此この法ほふ事ことといふ事こととと京都きょうと小  
乃のち官くわん職しやく配はいとて此この法ほふ事ことといふ事こととと京都きょうと小







そとく末右祖、趙廣漢が後と称す。くはるも  
其氏譜とつまひくふ事、所傳人中、毎も  
又あり是諸家流ありしあり

一、目錄、唯、古、稱、号、の、之、を、書、し、て、之、を、名、と、記、せ、り、  
此、れ、一、つ、く、相、年、の、姓、小、笠、原、石、川、安、藤、  
高、木、等、乃、も、さ、り、乃、氏、一、つ、て、其、族、に  
ほ、け、ま、は、み、や、と、す、又、稱、号、に、向、  
志、て、之、を、姓、に、な、ら、せ、り、清、和、源、氏、も、亦、同、く、  
わ、り、藤、氏、も、亦、同、く、乃、氏、も、亦、同、く、

源氏藤氏良岑氏小笠原氏乃、此、を、い、は、れ、  
相、傳、一、つ、く、相、年、の、姓、小、笠、原、石、川、安、藤、  
高、木、等、乃、も、さ、り、乃、氏、一、つ、て、其、族、に  
ほ、け、ま、は、み、や、と、す、又、稱、号、に、向、  
志、て、之、を、姓、に、な、ら、せ、り、清、和、源、氏、も、亦、同、く、  
わ、り、藤、氏、も、亦、同、く、乃、氏、も、亦、同、く、  
官位なくしてあり、才、是、舉、進、十、海、阿、り、乃、  
格、一、小、官、位、爵、祿、と、り、之、を、先、と、す、り、時、に、族、類、  
を、み、る、所、嫡、庶、長、少、と、り、之、を、以、て、才、と、り、乃、  
し、尊、卑、を、さ、り、乃、又、嫡、男、を、父、小、つ、り、乃、其、名、  
と、記、し、り、又、次、男、之、男、等、別、職、と、勤、じ、り、



時はま名を略しつゝ是今称号れんを  
書すは極くあり其名れんつゝつゝ事  
とお考れしる事ありあやまらす事  
ふい極く



